

千秀だより

横浜市立千秀小学校

10月号

平成29年(2017)10月2日



千秀小学校の誇りを胸に

校長 市川 幸男

ある日、校門を通ると、甘く気持ち良い香りが、漂って参ります。校舎に近づくにつれ、その香りが強くなり、見渡してみると大きな桜の木に囲まれた中、ひっそりと金木犀が花を付けていました。毎年、前期終了の時期と花を付ける次期が重ることから、金木犀の香りに、今年も半分が過ぎたのだと実感させられます。気がつくとも夏の暑さも今ではすっかり影を潜め、さわやかな秋の日差しに包まれています。そんな中、子どもたちは元気に毎日の学校生活を楽しんでいます。今月、中途にある前期・後期の切り替えを、単なる1年間の通過点とせず、児童一人ひとりが、自分の半年の取り組みを振り返り、新たな希望をもって後半戦を過ごしていけるようにしたいと考えています。ご家庭でもよろしくご協力願います。

そんな金木犀の花言葉は「謙虚」「謙遜」「陶醉」「初恋」と数多くあるのですが、その中のひとつに「気高い人」というのがあります。季節の変わり目に降る秋雨の中で、潔くすべての花を散らせ、金色の絨毯となる様から、「気高い人」という花言葉の由来となったのでしょう。

「気高い」といえば、先日6年生と一緒にいった修学旅行でこんな姿をみることができました。それは、2日目の旅館でのことです。毎年6年生は修学旅行のお土産を、ペア学年の1年生に買って帰るのですが、今年も迷うことなく買うことを選択しました。中には互いの学年の人数の関係で、二つ買う子もいます。そのために自分のお金を出すことも厭わずに、黙々と品定めをしていました。買い終わって財布を返却に来た数人の子に、「大変だね。お小遣いが減ってしまうじゃない。」と投げかけたところ、その子達は、校長先生は何を言っているのだろうと首を傾げながらも、「気になりません。私が1年の時、6年生からお土産をもらって、とても嬉しかったことを覚えています。」「そのことで、千秀小学校のことが、それまで以上に大好きになったことを覚えています。」と何人もが返事をしてくれました。『自分と同じ気持ちを今の1年生にもってほしい。』『学校を大好きになってほしい。その目的のためならば、自分のお土産は後に回してもかまわない。』と自信に満ちた顔で応えてくれました。「気高さ」とは少し意味合いが違うのかもしれませんが、140年の良き伝統を引き継ぐ子どもたちの、千秀小学校への愛と、そこに所属する矜持を垣間見たような気がしました。翌日の最終日、東照宮は、平成の大改修が終わったこともあり、多くの学校が詰めかけ大賑わいでした。いろいろな学校の児童に混じり、臆することなく二社一寺を見学する千秀の子どもたちに、大きく成長した姿を見たのは私だけではないと思います。



さて、4月に実施致しました「全国学力学習状況調査」の結果が出て参りました。概要を紙面にて紹介させていただきます。大切なことは、単に全国平均と比べ合するだけでなく、この結果をしっかり受け止め分析し、これまでの学校の進めてきた教育を評価すること。そしてこれからどう改善し、子どもたちに合ったより良い教育を実践していくかということだと学校では捉えています。今後の対応も含めて詳細は10月中旬までに学校HPにアップ致しますので、ご参照ください。